

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第3回上尾市産業振興会議
開 催 日 時	令和6年3月26日(火) 14:00~15:50
開 催 場 所	上尾市プラザ22 第2会議室
議長(委員長・会長)氏名	河藤 佳彦
出席者(委員)氏名	河藤 佳彦、石川 泰正、北川 景子、池上 卓郎、田中 宏幸、 塚田 隆史、石川 由貴、古谷 和則(代理)、堀口 慎一
欠席者(委員)氏名	飯田 裕之、大木 保司、松本 猛、松村 稔、井上 克典、樽井 花子、 西岡 利浩、〈オブザーバー〉佐藤 公保
事務局(庶務担当)	環境経済部次長 藤田 商工課長 小川、商工課副主幹 岡野、商工課主査 加藤、 商工課主事 三浦 農政課長 東、農政課主幹 互井
会 議 事 項	1 開 会 2 議 題 (1) 令和5~6年度の産業振興施策について (2) 令和6年度の提言書のアウトラインについて (3) 産業振興ビジョンの改定について (4) その他 3 閉 会
会 議 資 料	別紙のとおり

議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。

令和 6 年 6 月 7 日

会長の署名 河藤 佳彦

議事録署名人 北川 景子

議 事 の 経 過

事務局	<p>1 開 会</p> <p>定刻になりましたので、「令和5年度第3回上尾市産業振興会議」を開会いたします。</p> <p>本日の司会を務めさせていただきます、商工課長の小川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事前に委員の皆様へ配付いたしました次第に沿って進めさせていただきます。なお、事前に送付いたしました資料としましては、</p> <ul style="list-style-type: none">①資料1「令和5～6年度の産業振興施策について」②資料2「令和6年度提言書のアウトライン」③資料3「産業振興ビジョンの改定について」④補足資料【資料3関連】「ビジョン計画期間」 <p>以上4点でございます。</p> <p>過不足などを含め、よろしいでしょうか。</p> <p>また、関東経済産業局 地域振興課長の室住様の代理としまして、本日、地域振興課長補佐の古谷様にご出席いただいております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、会議につきましては、本会議設置要綱第6条第2項の規定に基づきまして、委員の過半数の出席がございましたので、有効に成立していることをご報告させていただきます。本日の会議の概要でございますが今年度実施しております産業振興施策の進捗状況に加えまして、前回お示しさせていただきました令和5年度の提言に基づき、予算要求した産業振興施策について、改めてご案内させていただきます。内容をお聞きいただいたうえで、令和6年度のアウトラインにつきまして委員の皆様からご意見を頂戴いたします。</p> <p>また、産業振興ビジョンの改定につきまして、現行ビジョンの評価検証を基に、課題の整理、それから新ビジョンのフレーム作りにつきまして議論を進めて参りたいと考えております。</p> <p>それでは規定に基づきまして、河藤会長に議事の進行をお願いいたします。</p>
会長	<p>2 議 題</p> <p>初めに、本日の議事録の正確性を証するために、議事録への署名を委員にお願いしたいと存じます。議事録署名人については、名簿順に指名させていただくことになっております。本来であれば、前回の大木委員に続きまして、松本委員にお願いするところではございますが、本日、松本委員と続く松村委員が欠席のため、北川委員をお願いをしたいと思います。</p> <p>北川委員には、後日事務局より議事録をお送りいたしますので、内容をご確認のうえ、署名をお願いいたします。</p>

<p>会長</p>	<p>それでは、次第の2「議題」に入ります。 議題（1）「令和5～6年度の産業振興施策について」事務局から説明していただき、委員の皆様から自由意見ということで、質疑応答をさせていただきまします。それでは、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局でございます。それでは、資料1をご覧ください。こちらは、今年度を実施しております産業振興施策の進捗状況と、前回の会議でお示しさせていただきました令和6年度の当初予算案に計上した施策についてご説明を申し上げます。</p> <p>①から順番にご説明を申し上げますが、⑤「中小・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援金」、次のページの⑥「農業者物価高騰等対策支援金」、⑨「農業水利施設電気料金高騰対策支援事業」、⑩「農業経営物価高騰等相談支援事業」につきましては、【新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金】を活用し、補正予算にて緊急経済対策として実施した事業となりますことを先にご報告させていただきます。</p> <p>それでは①からご説明いたします。①「中小企業サポートセンター」でございますが、2月末時点で専門家派遣実績は271件となっております。なお、同じ2月末時点でございますが、令和3年度につきましては279件、令和4につきましては371件となっております。</p> <p>令和4年度につきましては「事業継続力強化計画策定奨励金」事業を実施し、支給要件として、サポートセンターの専門家への相談を必須としておりました。奨励金の支給対象となった50件分が、申請実績の内訳にあります「BCP・現場相談」相談実績に組み込まれておりますので、実質的には昨年度と比較し50件の減少となっております。</p> <p>他に、実績の内訳を昨年度と比較いたしますと、「補助金申請を含む経営総合相談」が減少しており、公的なコロナ関連補助金が落ち着いたことに比例して減少していると考えております。一方で「販売促進相談」が増加しておりますが、資料には記載してございませんが、販売促進相談の内訳を見ますと「マーケティング」と「広報宣伝」に関する相談が8割を占めており、事業者が販売促進に向けて知識を得ようと積極的に動いていると推測しております。こうした積極的な活動を全面的にサポートできる体制の充実があらためて重要であると感じているところでございます。</p> <p>また、委員の皆様からもご意見をいただきましたが、サポートセンターの認知度の向上と利用を促進するため、サポートセンターのPR動画を作成いたしました。3月上旬より順次、市内の公共機関や一部の金融機関、商業施設等で、デジタルサイネージや大型スクリーンでの放映を開始いたしました。今後も、PR動画の更なる有効活用を図って参りたいと考えております。</p> <p>続きまして、②「SDGs商品開発補助金」でございます。こちらは今年度新規で実施した事業となります。申請実績は2件でございました。来年度は今</p>

	<p>年度の実績に応じた予算枠により継続いたしますが、社会的課題や地域課題の解決に結びつくような支援策となるよう、要件等のスキームについてはあらためて見直したいと考えております。</p> <p>次に、③「DX促進補助金」、④「創業応援補助金」につきましては、予算枠に対して、DXが10件中9件、創業応援補助金が5件中5件の実績となっております。DXおよび創業支援に対する資金面での支援が順調に実施できたものと考えております。</p> <p>続きまして、⑤「中小・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援金」につきましては、先ほど申し上げましたが6月の補正予算で計上し実施した事業でございます。昨年も同様な支援金事業を実施いたしましたが、その際には4,473件の給付実績でございましたが、今回は4,741件の給付実績となり、約300件の増加となっております。</p> <p>なお、支援金受給者のアンケートを行いました。その内容を見てみますと支援金の使途として、各種支払いへの充当や、赤字の補填の割合が7割近くとなっております。コロナ禍を過ぎた現在も、中小企業は依然として厳しい経営環境が続いていると考えております。</p> <p>続いて、2ページ目をご覧ください。⑥「農業者物価高騰等対策支援金」から⑩「農業経営物価高騰等相談支援業務」につきましては、農政課よりご説明を申し上げます。</p> <p>農政課でございます。⑥「農業者物価高騰等対策支援金」でございますが、6月の補正予算で計上し実施した事業となります。昨年実績は89件でございましたが、今回は101件を支給いたしました。給付額を昨年度の一律5万円より10万円に倍増したことが、件数増加の大きな要因と考えております。</p> <p>⑦、⑧の新規就農者への補助金につきましては、各1件の実績となっております。引き続き、市内外に向けた制度の周知と活用促進に取り組んでまいります。⑨「農業用水利施設電気料金高騰対策支援事業」でございますが、こちらも6月補正予算で計上して実施した電気料金の高騰に伴う緊急支援事業でございます。揚水施設を有する水利組合3団体へ料金高騰分を助成しております。</p> <p>⑩「農業経営物価高騰等相談支援業務」につきましても6月補正予算で計上したものでございますが、物価高騰等により営農活動に影響を受けた5件の個人農家に対しまして、農業分野の知見を有するアドバイザーより、販売促進など経営全般に関する助言を行い支援いたしました。</p> <p>それでは、引き続き「2 令和6年度の当初予算(案)に計上した産業振興事業」についてご説明申し上げます。</p> <p>こちらに記載している全12事業は、前回の会議でもお示した事業でございます。予算案として3月議会へ上程し、このたび可決成立いたしました。</p>
事務局	
事務局	

今年度から継続する事業につきましては、事業名の右側に「継続」、令和6年度からの新規事業につきましては「新規」と記載させていただいております。

それでは各事業につきましてご説明を申し上げます。①「中小企業サポートセンター」でございます。これまでの「知識」と「資金」の支援は継続してまいります。PR強化と時勢に即した事業者支援が喫緊の課題であると考えております。

②「SDGs商品開発補助金」でございますが、今年度の実績を踏まえ、予算枠3件分となっております。なお、補助率、補助上限額に変更はございません。③「DX促進補助金」につきましても予算枠、補助率、補助上限ともに今年度と変更はございません。

④「創業応援補助金」でございますが、今年度需要が高かったことから、予算枠を倍増しております。なお、補助率、補助上限額に変更はございません。

次に、⑤「技能検定受検料補助金」でございますが、こちらは新規事業でございます。前回の会議では、資格取得補助金としてご報告させていただきましたが、技術の継承と後継者不足への対応を目的に、技能士の育成に主眼を置き、技能検定受検料に対する補助を実施することといたしました。こちらにつきましては、初年度の実績や事業者の声をもとに、今後、その他の資格につきましては次年度以降あらためて検討していきたいと考えております。

次に、⑥「飲食店と農家のニーズマッチング事業」につきましては、「地元の食材を利用したい飲食店」と「地元飲食店に農産物を利用してほしい農家」のニーズをマッチングさせ、新たな商品開発を目指す地産地消とにぎわい作りを推進する事業でございます。マッチングを希望する飲食店と農家が一堂に集まり、各々から料理や農産物の特徴、こだわり、地産地消への思いをプレゼンしていただき、その後、様々な条件などについて質問や交流を交え、最終的に個別に交渉していただくことを考えております。飲食店の中には、食材を加工して使用するため、形が崩れている、大きさが基準に満たないなど、規格外のものでも良いので新鮮な農産物を安価に仕入れたいという声もございます。また、農家としては、販路の拡大や生産意欲の向上、また規格外品を提供することで廃棄ロスの削減も見込める効果がございます。新商品や新メニューの開発によるにぎわいづくりにつなげたいと考えております。

次の、⑦「農業者等経営改善相談業務」から、⑫「農産物販売機管理運営事業」につきましては、農政課よりご説明申し上げます。

事務局

農政課でございます。⑦「農業者等経営改善相談業務」でございますが、令和5年度に実施いたしました「農業経営物価高騰相談支援業務」を引き続き、物価高騰の事情のみならず、広く営農継続における諸課題の相談に対応するものでございます。

⑧「農地活用等研修会」でございますが、各地域の農業者が農地の将来像、地域計画の策定の促進を図るため将来的な農地の活用方法について外部講師による研修を行うものでございます。

⑨「新規就農等相談業務」でございますが、農業後継者育成確保を目的として事業者補助金を活用いたしまして、新規就農者を対象に、技術、営農指導など新規就農に関わる課題全般の相談支援を行うものでございます。

	<p>⑩「新規就農者経営支援補助金」、⑪「新規就農者農業機械等導入支援補助金」は継続事業でございます。新規就農者に対しまして、営農経費、資機材への資金的な補助でございます。⑫「農産物販売機管理運営事業」でございますが、新規就農者等の販売促進や農産物のブランド化、地産地消に向けた魅力発信を目的として農産物の自動販売機を導入し、上尾の農産物の販路と知名度の向上を図るものでございます。</p> <p>議題（１）「令和５～６年度の産業振興施策について」の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>皆様からのご意見・ご質問を伺う前ですが、④「創業応援補助金」では、どういった業種から申請があったのでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局でございます。令和５年度の実績でございますが、スマートフォンの操作教室、まつげエクステ、飲食のテイクアウト、計測機器の販売、最後に建設業・リフォーム関係の業種でございます。以上５件から申請がございました。</p>
会長	<p>それでは、ただ今の事務局の説明に対して、ご意見・ご質問などございましたらお願いします。</p>
●●委員	<p>⑦「農業者等経営改善相談業務」についてですが、どのような専門家をどれくらいの期間に渡り配置する予定でしょうか。</p>
事務局	<p>農政課でございます。⑦「農業者等経営改善業務」ですが、令和５年度からの継続事業となっております。詳細ですが、今現在、市内で農業コンサルタントに従事されている方がおり、その方を相談員として迎え、予算的にはかなり少額でございますが、令和６年度につきましては３名分の予算を確保しております。業務につきましては新規就農に限らず、既に農業に従事している方も対象となります。実施期間としては隔週で実施していければと考えております。</p>
堀口委員	<p>今の説明について⑦「農業者等経営改善業務」は新規事業になっておりますが、令和６年度は前年度と少し内容に変更点がございますので、その点について事務局から補足いたします。</p>
事務局	<p>農政課でございます。令和５年度につきましては物価高騰に特化しており、そういった内容の相談業務を承っておりましたが、令和６年度につきましては、物価高騰も含め農業全般の相談業務に対応するというのが主な変更点でございます。</p>
会長	<p>その他、ご意見ご質問はありますでしょうか。</p> <p>(発言なし)</p>

<p>会長</p>	<p>よろしいでしょうか。後ほどまた皆様からご意見をいただきますので、先へ進みたいと思います。</p> <p>それでは、議題（２）「令和６年度提言書のアウトラインについて」事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局でございます。それでは資料２をご覧ください。</p> <p>始めに「中小企業支援」の分野についてご説明いたします。</p> <p>資料上段の「課題・意見要旨」の部分でございますが、前回の会議で頂いたご意見の要旨をメインとして、中小企業を取り巻く環境や抱えている課題についてまとめたものを掲載しております。</p> <p>事業者においては、ゼロ・ゼロ融資の返済に加え、人件費の上昇や原材料費の高騰などにより、資金繰りが一段と厳しい状況になっております。また、人材不足や後継者不足による休廃業の増加も懸念されており、課題の解決に向けた支援策と事業者が相談しやすい支援体制を構築することが求められていると考えております。</p> <p>また、この激変する経済環境の中、新たな社会課題や異業種分野に挑戦する事業者もおりますことから、新たなことにチャレンジするものへの支援も重要であると考えております。</p> <p>そのため、資料の中段でございますが「求められる施策」といたしまして、事業者の経営活動を維持発展させていくため、人材不足に対するDX導入支援や各関係機関が連携を密に図ることはもとより、中小企業サポートセンターと各関係機関の連携体制を整理し、各役割を確立することが求められると考えております。</p> <p>また、SDGsやGXなど、企業の社会的責任として求められる取り組みに対し、意識の変化や取り組みの推進に向け、機運の醸成につながる支援策も必要であると考えております。</p> <p>これらのことを踏まえまして、提言（案）でございますが、「事業者の持続的発展と新たなチャレンジへの支援体制の充実」とさせていただきます。</p> <p>なお、中小企業サポートセンターの専門家による「知識の支援」と専門家のアドバイスに基づく取組を支援する補助金等による「資金の支援」の両輪で事業者をサポートしていくという体制は継続してまいります。</p> <p>事務局といたしましては、中小企業支援に関する提言書アウトラインにつきまして、下段の「議論のポイント」に書かせていただきましたが、事業者の持続的な発展を支えるために、求められる施策に記載した内容は妥当であるか。また、SDGsやGX、異業種分野など、新たなチャレンジに対する支援策として具体的にどのようなものが考えられるか、委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えております。よろしくご説明いたします。</p> <p>続けて、資料２の２ページ目、「地産地消とにぎわいづくり」についてご説明させていただきます。</p> <p>「中小企業支援」と同様に、資料の上段には前回の会議で頂いたご意見の要旨と「地産地消とにぎわいづくり」に向けた課題をまとめております。農業に</p>

<p>会長</p> <p>●●委員</p> <p>会長</p>	<p>おきましても、従事者の高齢化や後継者不足のため人材不足の傾向にあり、生産基盤の弱体化が危惧されております。市では近年、新規就農者に対する補助金制度や相談体制を整備し支援を拡大しておりますが、支援制度の広い周知が課題となっております。また、地産地消の推進に向けた販路拡大支援や、にぎわいづくりにつながる各産業分野における横断的な取り組みが求められております。</p> <p>そこで、資料中段「求められる施策」といたしまして、新規就農者の確保や効果的な情報発信が必要であること、農業と他業種が連携した事業展開が新規就農者の販路拡大やブランド戦略のきっかけづくりとなる可能性があること、学校給食を活用した地産地消の展開、駅周辺を中心とした市街地での各産業におけるにぎわい創出イベントの展開をあげさせていただきました。これらを踏まえまして、提言（案）は「新規就農支援のさらなる充実と中心市街地のにぎわいの創出」といたしました。</p> <p>事務局といたしましては、地産地消とにぎわいづくりに関する提言書アウトラインにつきましては、下段の「議論のポイント」に書かせていただきましたが、新規就農者を市内外から呼び込み、定着につなげる施策として、補助金制度や販売促進事業など、現行施策のブラッシュアップも含め、どのようなアプローチが効果的か、また、駅周辺を中心とした市街地のにぎわいを創出する施策として具体的にどのようなものが考えられるか委員の皆様からご意見を頂戴したいと存じます。よろしくお願いたします。</p> <p>議題（２）の説明は以上でございます。</p> <p>ただ今、事務局の方から令和６年度の提言書について方針をお示しいただきましたが、これについてご意見、ご質問どちらでも結構ですので委員の皆様からいただけたらと思います。</p> <p>それでは●●委員お願いします。</p> <p>私は製造業を営んでおまして、農家などはどのような物を作っているか一目で分かるんですけども、製造業になると会社の名前を聞いただけでは何を作っているか分かりません。●●製作所という社名ですが、会社によって扱っている物が異なりますので、一般の方から上尾のものづくり企業はこういったものを製造していると、周知を図っていただきたい。</p> <p>本日の会場のプラザ２２では、１階エレベーター前に展示スペースがありますように、工業や農業、商業はこういう物を作っているということを一般の人達に広く知っていただきたい。あげお産業祭などのイベントでは、単発で周知を行えておりますが、一過性ではなく常時周知を行えるオープンスペースがあるのが望ましいかなと思います。</p> <p>また、上尾市中小企業サポートセンターは上尾商工会議所が窓口になっておりますが、それもやはり知っている方、関連のある方のみが相談に来ているように思えるので、一般の方はなかなかそういったことまでは分かっていないのではないかと思います。</p> <p>１階の展示スペースのような場所をもっと有効活用することができるか、という内容だと思いますが、産業振興や情報発信など事業者が広く周知に使えるスペースが必要だということでございます。</p>
---------------------------------	--

<p>●●委員</p>	<p>その他、提言書に記載されている内容についてはどのようにお考えですか。</p> <p>提言書に記載されている中小企業支援については、こちらでよろしいと思います。しかし、予算とかそういった細かいところで言いますとDX促進補助金などは、実際に会社で取り組もうとすると、難しいと感じると思うので、事業実施までのバックアップがあるといいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、中長期的な課題として改善していけたらと思います。 それでは、●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>普段から中小企業や地元の零細企業等の方とお話する機会が多い中で、ゼロ・ゼロ融資の借り替えや伴走支援など、様々な支援を実施しておりますが、いわゆるゾンビ企業というものが日本では25万社ある状況です。ゾンビ企業というのは、金利返済ができない企業の事を言いますが、今後、マイナス金利が解除され、金利が急上昇するなど、益々厳しくなってくると思います。</p> <p>また、下請け、孫請け等の企業が多いなかで、価格転嫁に応じてもらえないというのが現状です。大手企業のみが賃上げの取り組みをしており、実際の中小企業は人手確保ができず、賃上げどころではないため、価格転嫁に応じない企業にはある程度、規定を設けるなど対策を講じないと、中小・零細企業の経営が改善されていくことは難しいなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ゼロ・ゼロ融資について、返済の時期が迫っていますが、返済ができない企業が沢山いるということです。これは金融機関としては非常に切迫した状況であるということには間違いなと思います。これに対し、自治体に何ができるかということになりますが、一つは融資を実行するにあたって適正な評価を支援するなど考えられます。そして、中小企業の価格転嫁について、適正に反映されていないということですが、国の公正取引委員会や経済産業省で適正な運営の働きかけをしているところですが、なかなか矯正していくことは難しいと思います。こちらについて「求められる施策」の中で、二つ目に記載がされております。しかし、これについて市が独自で何か取り組もうとすると、難しい点もあるかと思えます。ですから、このことについては注視しながら、国の施策と連携する方法を検討するということになるかと思えます。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>最近の天候ですと夏は暑く大変なイメージがあり、天気が大きく左右されてしまうため、農業は大変だと思います。</p> <p>以前、市内農産物を学校給食で使用することで、地産地消を推進し、農家の方を学校に招待して生徒と一緒に食べたという記事を読んだことがあります。上尾市でもそのような取り組みを実施してもらえたら良いなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>食育に関するご意見ですね、食育を通して地域のことを知ってもらい、市内の子どもたちのアイデンティティの形成に助力する。地域にこんなに美味しいものがあるということ、地域連携を通して知ってもらう。非常に重要なことだと思います。長い目で見て地元農産物をブランド化するためのスタート</p>

<p>●●委員</p>	<p>地点となりますので、学校給食等で食育の推進施策を実施することは、大事なことだと思います。</p> <p>●●委員お願いします。</p> <p>中小企業支援ということで、事業者の皆様には上尾中小企業サポートセンター、よろず支援拠点をご活用いただいておりますが、私達はよろず支援拠点の運営を行っております。また、事業を始めたいという創業の方々の相談受付も行っているところです。私達は埼玉県内全域を対象に事業をしておりますが、この上尾市産業振興会議の委員という立場に限り課題や意見を申し上げますと、やはり人手不足、それから既存の事業者においては、人件費・原材料費が高騰していると情報が入ってきております。今回、お示しいただいている方向性というのは間違いなく県のみならず全国的に必要とされていることが網羅されていると認識しております。</p> <p>そのなかで、今からビジネスを始めていく、あるいは既存の事業者においては社会課題にどれだけ寄与していく事業を展開していくかというのは非常に重要になってきております。さらに、ビジネスとしてやっていくためには、社会課題を解決しつつ、その都度稼げるという仕組みが大切ではないかと思えます。したがって新たなチャレンジを支援するというようにお示しいただいておりますが、今の事業のなかで世の中の方が困っているところに着目したビジネス、そういったところに政策が展開されていきますと、上尾市にある企業のパワーが盛り上がると思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>一点目は中小企業支援として、よろず支援拠点、上尾市サポートセンターがあり、このような既存の機関を有効活用することで、人手不足や価格高騰といったことに対する解決策の一つとして役立てるということです。それから社会課題の解決や地域課題の解決についてですが、このことについてはSDGs商品開発補助金が該当すると思えます。社会貢献という点においては、企業における社会的責任ということになります。大企業は取り組めても、中小企業はなかなか実施に至らない。ですから、本来の収益事業に対する取組に社会課題の解決に繋がる事項を取り入れることによって、責任は果たされることになる言える、ということだと思います。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>施策等ご提案いただいておりますが、全体的にはこれでよろしいのかなと思えますが、2点ほど意見がございます。1点目はDX促進補助金についてです。DXに取り組む必要があるのかお客様から聞かれますが、実際何をすれば良いのか分かっていない企業が多いように感じます。例えば、人材不足に対し、これからは多く人を採用できない時代になってきていると思えますので、1名採用する代わりにDX促進を行うように、意識の改革というものに挑戦してもいいかなと思えます。2点目はSDGsとGXについてですが、こちらも非常に今話題になっておりますけれども、やはりこれから先、この流れでSDGsやGXを意識した取り組みをしないと市場から退場させられてしまう環境になりつつあると思っております。ですので、今回の商品開発補助金というものも良いと思えますが、SDGsやDXに取り組まないとこうなってしまう、というような啓発活動も必要になってくると思えます。中小企業からはそこ</p>

	<p>まで取り組む余裕はないと伺っておりますけれども、今、取り組まないと将来が不安になってしまうというところは感じております。</p>
<p>会長</p>	<p>SDGsやDX、GXについて企業向けの啓発セミナーを実施する必要があるというお話です。これからはSDGsやDX、GXに取り組んでいかないと企業として評価されない。しかし、問題に直面している中小企業としては実際に取り組む余裕があるのかという問題もあるかと思えます。例えば、環境に貢献・配慮した商品開発を行い供給するような流れになると思いますが、その前段階として●●委員がおっしゃったようにSDGsやDXとはなんなのか、なぜ大事なのかということを理解していただくことが重要です。</p> <p>●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>消費者目線の意見となりますが、まず中小企業支援について、企業ができる社会的責任について、その部分はとても大事だと思いますが、昨今の情勢を考えると難しいところでもあると思います。また、令和5年度のSDGs補助金が予算枠10件となっており、その内2件の申請があったと思いますが、その内訳がどのようなものだったのか気になります。それから、地産地消とにぎわいづくりについて、今までは地産地消といえば全て農産物というふうに考えておりましたが、農商工観のオール上尾ということで、上尾の名物を活かすような、取組ができれば良いと思います。先ほど、ものづくり協同組合会長の●●委員から、上尾の工業製品は直接見る機会がなく、産業祭で初めてたくさん市内企業がものづくりに携わっていることを知るとおっしゃっていたので、是非、そういった部分において、周知できるところが欲しいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>1点目は企業の社会的責任についてのお話でしたが、それに関連してSDGs商品開発補助金の実績について質問もありました。これについて事務局の回答はございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局でございます。SDGs商品開発補助金の実績でございますが、2件ございました。1件目は業務用機械機器製造業の会社ですけれども、主に工業用の温度計を作っている会社でございます。目的としては代替フロンから自然冷媒ガスへの切り替えをしたいというものでございます。それを切り替えていくうえで、温度計内の目盛りも替わってくるため、自然冷媒ガスに対応した目盛りの作成という商品開発を目的に利用していただいたところでございます。もう1件は造園サービス業でございます。こちらの会社は庭のリフォームを請け負っており、業務上、レンガや植木鉢や肥料、植物自体どうしても余剰が発生してしまうため、その余剰が出た部分を再利用してくれる方や店頭、ECサイトを通じて無料または低価格で譲渡を行えるようなシステム構築ということで、補助金を利用していただいております。今年度はこの2件が内訳となっております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>実際、似たような製品開発等をしているが、補助制度の対象になるかどうか自分では分からないという方もいるかと思えます。ですから、先ほど●●委員がおっしゃったように、そもそもSDGsやDXに取り組むということがど</p>

	<p>うということなのか、自分の業務とどういう関係にあるのか、そういったところをしっかりと理解していただけるような、啓発セミナーをしていくことで申請件数が増えていくのではないかなと思います。それから2点目の地産地消についてですが、こちらは広く捉えることで重要なことだと思います。実際上尾も歴史文化遺産など、色々と発信していると思います。ですから、そういったものも結び付けていくことによって地域ブランドを発信していくということになります。</p> <p>●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>国の動向として、デフレ脱却のための経済対策が閣議決定され、裏付けとなる令和5年度の補正予算が成立しており、令和6年度予算についても閣議決定されて整備中ということでございます。そのなかでやはり同じように原材料の高騰であるとか、人材不足の対応というのが謳われているところでございます。事例として「中小企業省力化投資補助事業」というのがございまして、既存の「ものづくり補助金」や「事業再構築補助金」とは違い、新規の補助金でございまして、最大1,500万円の補助、補助率2分の1、一番小さい規模ですと従業員5人以下でも200万円の補助があり、賃上げを行うと補助額が300万円になるという補助制度を現在、設計しているところでございます。</p> <p>こちらは研究開発等を要件としておらず、シンプルに設備投資をして省力化をして人手不足に対応するというもので、大企業だけでなく中小企業も活用できる余地があるものでございます。</p> <p>上尾市においても様々な補助金がありますので、国の補助金と併せてご活用いただくことで市内の人手不足に対応していただければと思います。</p> <p>また、DX促進補助金のお話もありましたけれども、昨年くらいに国がデジタルガバナンスコードという、DXの考え方について定義から整理されているものがありますので参考にいただければと思います。DXというのはただソフトを導入すれば達成ということではなく、あくまで手段であり、会社としてどうありたいか、どのような企業を目指したいのか、そのために何をしなければならぬのか逆算したうえで、結果的に取り組むことがITソフトの導入である。そういった考え方でないと失敗してしまうというような事例が掲載されてございます。そういった内容についても、市役所や支援機関の皆様把握いただいたうえで、DX促進補助金やGXにおける取組の推進をしていただければと思います。</p>
<p>会長</p> <p>●●委員</p>	<p>国にはしっかりとした制度メニューがありますから有効活用してください。そのためにはまず自治体がそれを活用できるように、自ら理解して使いこなしていただく必要があると、こういうことがおっしゃりたかったのかなと思います。</p> <p>それでは●●委員お願いします。</p> <p>今回の資料のなかに物価の高騰が挙がっておりますが、最終的に個人の収入に還ってくる流れにしないといけないため、強制力はありませんが流れが留まる事のないように、市としてチェックしていかなければならないと思</p>

<p>会長</p>	<p>ます。もう1点は、山ほどある情報をどのように困っている中小企業に届けられるかという情報のマッチングが重要だと思います。</p> <p>そこも今後は相談強化しながら進めていく必要があると思っております。</p> <p>収入の還元についてですが、価格転嫁の対応チェックなど自治体としてできることがあるのではないかと考えています。それから情報のマッチング、多くの情報を的確に伝えて、必要としている人に利用していただくということですね。</p>
<p>会長</p>	<p>私の個人的な意見を申し上げます。一つは地産地消とにぎわいづくりの提言についてです。「新規就農支援のさらなる充実と中心市街地のにぎわいの創出」ということは、まず前提として非常に重要なことだと思いますが、来年度の事業一覧を見ますと、⑥～⑧、⑫は既存の農業者に対する支援であり新規就農者と同じくらい大事なことかと思っております。なぜかという、既に農地があり人材ノウハウがあるということ、例を挙げると⑫「農産物販売機管理運営事業」を私はイメージしています。直売所や道の駅などでは、成功している他地域が見受けられます。よく顔写真などで誰が作ったか分かるようにしていますが、直売所や道の駅を情報発信の場として活用するということは、効果のある取組だと思います。やはり、自分たちで作っているものを知ってほしい気持ちはあると思っておりますので、直売所等で販売促進をすることで売上増加の可能性はあると思っております。特に上尾の農業の特色は、大都市近郊農業ですから、米作を中心とした農業とは性格が異なります。野菜果物などは高付加価値化されますので、ブランド化への取り組みを、既存農業者への支援という形で取り入れてもよいのではないかと考えています。</p> <p>もう一つは、中小企業の新たなチャレンジを支援するために具体的にはどのような施策を考えるかについて、いわゆる底支えも大事ですが、それと共に新規事業展開を支援していくということが大事です。金融機関においては適正なリスク評価を行うことが大事だと思います。そのために、今ある制度融資を有効活用することが有効な方策の一つとして考えられると思います。これを戦略的に利用していただくことで新しい展開が可能になると思います。実際に資金を融資するのは銀行ですので、身の丈から外れた融資は実行されません。一定の割合で事業が上手くいかない判断をされ、要件を満たさない企業もあるため銀行も慎重になります。市制度融資は銀行と市と信用保証協会との連携が必要となりますが、それをオーガナイズできるのは市になります。既存の貸付け制度のみだと勿体ないと思っておりますので、SDGsやDX、GXに応用できるような貸付けを検討していただけるといいと思います。</p> <p>次に、情報発信についてですが、元々「あげおポータルサイト」という市内の魅力を発信する情報サイトがありました。これは製造業だけではなく商業や農業等、様々な情報を発信しておりましたが、廃止となってしまいました。発足当初から見ておりましたので、ここまでのデータベースとして育ったのに廃止になってしまったことはとても残念に感じております。その代用としてSNSを活用した情報発信がありますが、やはり一番大事になるのはホームページだと思います。そこでお店を知っていただきアクセスを増やし、そこから発展的にSNSを活用して広範囲に情報提供を行う、そのような手法が一番理想的だと思います。</p>

事務局	<p>委員の皆様からは情報発信について沢山のご意見をいただき、共通した課題だと認識しています。そのため、情報発信はとても大事なことだと思います。一方で、高齢者の方はホームページやSNSを利用することが難しいため、回覧板や市広報などの紙媒体の活用が効果的です。そのため、それぞれ対象に応じて最適な方法で情報発信を行うことも必要だと思います。周知の仕方については組織間のバランスもあるかと思いますが、商工担当だけでは難しいということもあるかもしれません。最終的には上尾市の判断になるかなと思いますが、やはりあげおポータルサイトのような情報サイトを再活用すれば必要な産業情報をすぐに検索することができますので、再度、昔の資料を遡っていただいて、振り返っていただくことも必要かと思います。</p> <p>それでは、議題（3）「産業振興ビジョンの改定について」事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局でございます。それでは、恐れ入りますが資料3をご覧ください。前回の会議におきましては、現行のビジョンの評価・検証の回答集計の傾向についてご説明させていただきましたが、全体的な傾向といたしましては、多くの事業で当時の課題に対するアプローチの方向性は合っており、次期ビジョンに引き継ぐ事業も多いという内容でございました。一方で、今後、検討すべき施策、期待する施策についてのご意見もございました。そこで、このたびの評価・検証をもとに、各産業分野における課題を次期ビジョンへの反映材料として整理したいと考えております。</p> <p>また、新ビジョンを策定するに当たりまして、計画期間や推進体制など、全体的なフレームづくりも進めていかなければなりません。本日は計画の大枠となる部分について協議させていただきたいと考えております。</p> <p>また、新年度より、市内産業に関する専門的な調査や分析、また事業者アンケートを実施する予定でございます。計画策定に当たり、必要となる情報について皆様よりご意見を頂戴できればと思います。</p> <p>それでは、始めに資料上段の①「本市の各産業分野（商業・工業・農業・観光）の課題の整理」についてご説明申し上げます。</p> <p>こちらには、現行ビジョンの評価・検証におきまして未実施ではあったものの、次期ビジョンにおいて必要性が高いと評価いただきました施策、また、評価理由とご意見欄に今後の課題として頂戴した施策、さらに、当市の産業の現状や社会情勢の変化から今後必要と思われる施策の中から、各産業分野別について3点ずつ抽出し提示させていただきました。また、産業横断的な課題について、下段に「その他の産業横断的な課題」として提示させていただきました。令和6年度にコンサルを入れまして市産業の現状分析や事業者アンケートを行います。その調査結果によっても新たな課題が出てくると思われますが、まずは、現時点での課題を把握し、次回以降の会議へのたたき台にしたいと考えております。</p> <p>本日は、こちらにあげさせていただきました各産業別の課題と、こちらには掲載していない「他にもこういう課題などがあるのではないか」といったようなご意見を頂戴できればと存じます。</p>
-----	---

①本市の各産業分野の課題の整理についての説明は以上でございます。

続きまして、②「新ビジョンの在り方（計画期間、推進体制、ビジョンの体系、成果指標）」についてご説明申し上げます。

まず計画期間でございますが、現行のビジョンの計画期間は概ね10年となっております。恐れ入りますが、別紙の補足資料【資料3 関連】をご覧ください。上段に記載しておりますが、当市と同規模の県内他市におきましては、計画期間は10年または5年となっております。川越市と越谷市は両市とも総合計画の終期にビジョンを合わせるため4年となっておりますが、実質的には5年計画と同等の内容と思われま。10年のケースであってもさいたま市のような、中間の5年で見直しの改定を行っていたり、所沢市のような10年計画とは別のアクションプランとして5年計画を有している自治体もございませ。

本市の新ビジョンにおきましても、事務局といたしましては、流動的な社会経済環境において時勢に沿った施策を展開するためにも、5年ごとの策定または見直しは実施すべきであると考えております。ただ、10年計画の中で、中間の5年で見直すパターンと、5年ごとに策定するパターンがございませ。そのメリット、デメリットを中段以降に記載しております。本日この場で計画期間を決めるわけではございませませんが、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと存じませ。

恐れ入りますが、資料3にお戻りください。続きまして、推進体制でございますが、ビジョンに基づく産業振興を推進していくためには、市だけではなく、産業活動の主体である各産業分野の事業者をはじめ、産業支援機関や金融機関、市民団体や関係行政機関など、本市の地域産業振興に関わる多様な主体が社会経済情勢に柔軟かつ適切に対応しつつ、市内産業への影響やその動向について、分析も踏まえながら連携して取り組みを推進していくことが重要であると考えております。

従いまして、新ビジョンにおきましても現在の推進体制を継続し、各施策や事業の進捗などについて情報を共有するとともに、課題や施策の方向性について、意見の交換や集約を図って参りたいと考えております。

次に、3点目のビジョンの体系についてでございますが、現行ビジョンの構成といたしまして、「交流と連携でつくる、多彩な産業がキラリと光るまちあげお」という将来像を掲げておりまして、この実現のために3本の柱となる基本方針を定めております。各基本方針にはそれぞれ各施策が設けられ、さらに各施策から個別の事業が合計で130設けられております。

先ほどの計画期間の説明と重複する部分がございますが、個別の事業を10年スパンで計画した場合、時間の経過とともに社会経済環境も変化し、計画した事業とニーズが合わなくなる可能性がございます。そこで、新ビジョンにおいては、必要となる施策は計画として盛り込み、具体的な個別事業につきましては、現在の運用と同様に、この産業振興会議にて協議・立案し、毎年、時勢に沿った事業を提言書にて定めていってはどうかと考えております。

最後に、施策に対する成果指標（目標値）の設定についてでございます。現行ビジョンにおきまして成果指標や目標値の設定は特段なく、今回の評価・検証においては、「ビジョン策定当時の課題に対するアプローチの方向性」と「策

	<p>定当時に設定した目指すべき姿への寄与度」を評価基準といたしました。新ビジョンにおきましては、何を指標とするのか、どこを基準値・目標値とするのかについては、今後の検討事項となりますが、各課題の整理や事業の妥当性や方向性を検証するためにも、客観的な評価基準が必要と考えております。</p> <p>②「新ビジョンの在り方」についての説明は以上となります。</p> <p>最後に、資料3下段になります。③の「計画策定に必要な情報」についてご説明申し上げます。</p> <p>新ビジョンの策定に当たりましては、新たな課題の抽出や重点的に取り組むべき施策を選定するため、事業者アンケートの実施や、人口や労働の統計、産業構造の現状など、多岐に渡る統計情報を収集する必要があると考えております。また、他自治体の産業振興施策の状況や、その進捗状況なども参考情報として収集しておくべきと考えており、上尾のポテンシャルや地理的特性を活かした産業振興施策例について、他自治体の施策と比較するなど、情報を精査していく必要があると考えております。つきましては、計画策定に必要な情報につきまして、委員の皆様からご意見を頂戴できればと存じます。</p> <p>③の「計画策定に必要な情報」の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今ご説明いただいた内容について自由意見・質問ということで、委員の皆様まありますでしょうか。</p> <p>(発言なし)</p> <p>私から一点意見を申し上げさせていただきます。</p> <p>資料3の①「商業・工業・農業・観光の課題の整理」についてですが、こちらは縦割りの業種になっておりますが、例えば、商工連携など、分野横断的なことは稀にあるとはいえ、役所の組織だけで成し得ることはできません。これをどのように機動的にしていくのかということ考えた時に、最後の「その他の産業横断的な課題」は非常に大事なことだと思います。例えば縦割りの役所内においてもSDGsやDX、GXというのは工業だけでなく農業、それ以外のセクションにも関係していますので、商工農政だけでは収まらない可能性があります。その場合は、自分たちの業務にも密接に関係していると認識していただいて、事前に産業振興ビジョン策定の段階で共有し、どのようにビジョンのなかに取り込んでいくのが重要になるかと思います。</p> <p>また、新ビジョンの計画期間等についても資料に記載してありますが、事務局としての考えがあればお聞かせいただければと思います。</p> <p>事務局でございます。先ほど説明させていただきました通り、計画期間10年、策定内容を5年で見直しというのが現在の自治体の一般的な計画期間かと思っております。事務局といたしましては、実績に即したいところではあるのですが、5年ですと計画策定に力が注がれてしまいます。計画の推進の部分と、計画策定の部分というところの業務的なところもありますので、現段階では計</p>
会長	
会長	
会長	
事務局	

<p>会長</p>	<p>画期間を10年といたしまして、5年目に内容の見直しを行う予定で考えております。なお、細かい個別事業の詳細については毎年の提言書にて提言をさせていただきます。</p> <p>今、事務局より説明があった計画期間等を含め、全体について質疑があればお願いいたします。</p> <p>(発言なし)</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、議題(4)「その他」ですが、事務局より何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局より3点お伝えいたします。1点目でございます。来年度の産業振興会議ですが、例年の3回から1回増やしまして4回開催する予定でございます。第1回につきましては5月15日の水曜日を予定してございます。</p> <p>開催通知にて改めてご連絡をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。2点目でございますが、新年度以降から、毎回協議させていただいております提言書の内容の他に、今、ご説明いたしました産業振興ビジョンに係る協議も増えて参ります。これに伴いまして、会議に要する時間も今までより若干長くなることが想定されます。つきましては、委員の皆さまにおかれましてはご多忙のことと存じますが、ご協力の程よろしくお願いたします。</p> <p>最後に3点目でございますが、委員の皆さまの任期でございますが、2年の任期が今月末をもちまして終了いたします。新年度に入りましたら各機関団体様に委員の推薦についてご依頼をさせていただきたいと存じます。人事異動等でご担当者が換わられる方もいらっしゃるかと思いますが、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>委員の皆さまから何かありますか。</p>
<p>●●委員</p>	<p>ご存じの方も多いかと思いますが、今年度さいたまスーパーアリーナで開催された「彩の国ビジネスアリーナ」にて、DX大賞を地元の企業が最優秀賞を受賞しまして、会社見学や各種講演会を実施しています。</p> <p>地元企業の事例として、情報発信に使用していただければいいかなと思いますのでご紹介します。</p>
<p>事務局</p>	<p>今のDX大賞の件につきましては、市の広報広聴課も企業に取材に訪問させていただきました。市ホームページにも掲載しておりますので、是非、お時間あるときにご覧いただければと思います。</p> <p>補足ですが、今の件については市長も自ら企業の方にお祝いに伺いました。自社開発で生産効率を向上させるソフトを開発したということで、第1回目の1社しか選ばれないDX大賞最優秀賞を受賞したと伺っております。そういったところも周知してPRできればと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>以上で議事を終了いたします。 進行を事務局にお返しいたします。</p>

事務局	ありがとうございました。 それでは、最後になりますが、本日副会長が欠席ですので、会長より閉会のご挨拶をお願いいたします。
会長	(閉会の挨拶)